

令和元年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和元年11月19日(火) 午前10時30分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委員	篠原 美智代
副委員長	武田 弘	委員	高橋 佳代子
委員	加藤 みどり	委員	唐木 義昭
委員	菊池 眞太郎		

(欠席委員)

委員	佐藤 優子	委員	山崎 剛
委員	岩崎 照代		

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	副館長	西原 崇浩
教育部参事(兼 生涯学習課長)	小阪 潤一郎	主 幹	桐村 久美子
館 長	井口 崇	主任主事	大橋 研太

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 議題

- (1) 郷土博物館の使命と評価について
- (2) 市川市堀之内貝塚等視察結果について
- (3) その他

7 報告

- (1) 郷土博物館における台風被害状況と今後の対応について
- (2) 第35回袖ヶ浦市生涯学習推進大会について
- (3) その他

8 議事

伊藤委員長 議題(1)「郷土博物館の使命と評価について」、事務局より説明をお願いします。

事務局(西原副館長) 資料に基づき説明。

唐木委員 博物館のPRについてお聞きしたいことがあります。今年博物館ではたくさんさんの催し物を開かれておりましたが、いったいどのような形で案内をされているのか、私の方で調べてみました。市の広報、博物館のHP、それからタウンペーパーである房総ファミリア、シティライフ、地域新聞、また、ポスターについては博物館周囲の掲示板、ゆりの里、公民館、図書館、自治会の回覧板にも貼られています。博物館の横のつながりもあるでしょうから、他市の博物館にも貼られていることと思います。しかしこれ以外のPRとして、資料中に平成30年度の取り組みとしてテレビや新聞を活用した情報掲載と書かれています。これは具体的にどのように行っているのでしょうか。

西原副館長 まず新聞についてですが、定例記者会見を市役所で行っておりますので、そういった形で事業の情報を提供しています。採用するかしないかは各新聞社の裁量になります。テレビについては、横のつながりを確保できておりませんので、テレビ会社の方から取材が申し込まれるのを待っている形です。昨年度は、NHKに石井氏の市民コレクションの企画展について放送していただいたり、情報を流していただいたりしました。それからフジテレビには、博物館にきて番組の撮影をしていただいたりもしています。基本的には記者会見を積極的に使って情報発信をしています。また、ポスターについては市内の駅にも貼っています。

唐木委員 今後、もっと新しい方法でPRしていきたいという考えはありますか。

西原副館長 29年度にはYoutubeに動画を投稿したこともありましたが、最近はそのままで力を入れていません。今後、デジタルコンテンツに力を入れていかざるを得ないと思いますが、現実的に職員がコンテンツについていけないということ、時間的な余裕がないということが課題に挙げられると思います。そういった点をクリアし、取り組んでいきたいとは思っています。

唐木委員 PRツールの使い方について私から提案があります。1つは企画展のPRについて。展示開始時の最初のPRは出来ていますが、2か月など長い期間開催していますとどうしても中だるみが出てきます。ですから、開催途中にもアナウンスが必要な気がいたします。もう1つはゆりの里の活用です。可能かは知りませんが、ゆりの里に博物館専用の掲示板を作りたいと思っています。あらゆる人たちが来る場所にありますから、公園利用者を取り込むように、ゆりの里に来た方々も当然博物館に取り込むべきだと私は思います。先ほどゆりの里にもポスターを貼ってありますという話をしましたが、私が見たのは入り口の近く、それからレジ後ろのいろんなサークルが貼ってあるスペースです。正直に言わせてもらいますと、ただ貼ってあるだけという感じがいたします。あまり目立たない。博物館が独立性をもった掲示板が必要なのではないかと思います。

西原副館長 おっしゃる通りかと思われます。前回視察した市川市では、道の駅の入り口に展示スペースがあり、ポスターや説明板が掲示してありまして、あのような形が理想ではないかなと思いますが、正直なところそういったことはしていません。そもそもそういったことを行うためのすり合わせをしてきておりませんでした。今すぐにといいわけにはいきませんが、その点については改善していきたいと思っています。

井口館長

タイムリーな情報発信というのは行うべきだとのお話でしたが、効果のほどはどれほどかとは思いますが、私はFMラジオの番組で「袖ヶ浦ミュージアム」というコーナーを担当させていただいております。催し物や、市民の皆さんとどう関わっていくのか、どんな博物館に姿を変えようとしているのかといったことも含めて、かずさFMで月に1回、考えていることやコマーシャルも含めてお話していいですよという時間を30分頂いております。実は明日も収録ですが、毎月第4水曜日の午前9時から9時半が本放送日時、夜の午後8時半から9時が再放送日時です。どれほどの人が聞いていただいているかについては難しい点もございますが、そういったこともプラスアルファとして行っております。

桐村主幹

企画展示開催時に、記者会見の他に内覧会を行います。その際に放送関係者の方に来ていただいたりします。今年についてはできませんでしたが、その代わりに新聞社、テレビ局に図録をお送りしました。テレビ局からの反応はあまりありませんでしたが、現在開催している企画展については前期と後期で展示替えをするということもあり、PR効果を狙ったわけではありませんでしたが、そのことがいいPR効果になり、後半も来ますと言ってくださった方々については、実際に後半の展示解説会に合わせて来ていただいた方も随分いました。新聞社の方も後半の始まりに合わせて、まず東京新聞に取り上げていただき、千葉日報も先日取材に来られてこれから掲載していただけるとのことでした。ですから中間でのアプローチが重要というのは私もすごく感じております。それから新しいPR方法ですが、企画展アンケートの中で「何の媒体でこの企画展を知りましたか」ということを聞いていますが、回答の中でSNSがありました。こちらからは積極的に発信していないので、もしかしたらどなたがブログ等にご書いていただいたものが広まっていたりするのかもしれないとも思っています。展示解説の際にお客さんからブログをやっていないのかとも聞かれたりすることもありますので、ブログで展示の裏話なども発信出来たらいいとは思っています。

伊藤委員長

資料を見ますとHPのアクセス数も増えていきますね。しかし更新されて

いないことが度々あります。アクセスがあるということはそれだけ関心があるということですから、なるべく最新の情報を掲載するようにしていただければと思います。今年度の入館者を見ますと、昨年度より良いですから、このままもう少し頑張っていたいただければさらに入館者が増えることと思います。

篠原委員

ミュージアム・フェスティバルがマンネリ化しているとありますが、市内には博物館にいらっしゃらない、存在を知らない方もいると思います。前回市川市視察時のお話の中で印象的だったのが、とにかくどんな形であれお客さんに来ていただくこと、知っていただくことが重要だということでした。ですから例えばミュージアム・フェスティバルでも野菜を売るといのはいかがでしょうか。先日、かまフェスというイベントに行ったらすごい人の数でした。いろいろな野菜が売られていたり、ほうきやかごを作っていたり、キーホルダーを売っていたりして、若い人たちがとても多かったです。今の若い人たちに向けSNS等で発信すればもっと人が集まると思います。やはり興味のない人にとって博物館はわざわざ入らない場所ですので、身近に感じてもらうことがとにかく大事だと思いました。

武田委員

今年度のミュージアム・フェスティバルにおいて、実は地元の野菜を売ってました。今後また継続していければと思っています。すぐ売り切れてしまったため、わからない方もいらっしゃったかもしれません。

篠原委員

地元とのつながりも生まれますので良い試みだと思います。

西原副館長

ただいま野菜の出店について話がありましたが、ミュージアム・フェスティバルに出店したいというお話がいくつかあります。これまではどちらかといえば小さくまとまっていたのでお断りさせていただいていましたが、これからは積極的に、許される範囲で新たな出店等も検討していきたいと思っています。

伊藤委員長 今年度のミュージアム・フェスティバルの参加者を見てもらうと、2日間とも晴れたということもあり相当な人数が来ています。そのことを踏まえると、これ以上お客さんが来てしまうと混雑してしまうのではないのでしょうか。

篠原委員 駐車場が心配ですよね。

伊藤委員長 博物館、公園と駐車場がいっぱいになると道路に車を停める人が出てきてしまいますよね。ただ、友の会も安くものを売っていますね。ああいったものも子どもたちが喜ぶと思います。

菊池委員 旧進藤家住宅で餅つきを行っても良いと思います。それだけでも人が来ますよね。

篠原委員 ミュージアム・フェスティバルの催し物は、歴史に関係することでも良いのでしょうか。例えば、輪投げなど。

井口館長 構いません。

篠原委員 そうでしたらいろいろな催し物が考えられますね。

伊藤委員長 たたき染めはすごい人気がありますよね。

加藤委員 リピーターが多いです。昨年来た子どもたちが今年も来たりもしますし、大人の方でもいます。

伊藤委員長 いろいろなことをやっていますし、今年の参加者4000人台は過去最高ですよね。

篠原委員 資料中、そではく30の展望のあるべき姿に市民が自らの意思で参画し、

常設展の更新や企画展などが開催されているとありますが、常設展の更新は学芸員の仕事ではないのですか。友の会の記載がありました。

西原副館長 一般的には職員の仕事ですが、袖博では市民学芸員の方をはじめ、市民の方も一緒に携わっていただいで作り上げるということを行っています。

篠原委員 展示に関われるということを知りませんでした。

井口館長 そのことに関してはアナウンスが足りなかったかもしれません。昨年は市民の方のコレクションを用いて大きく企画展を開催させていただきましたが、例えばそのような機会をもっと探っていく、預けていただいた資料を常設展の更新に充てるなどということが考えられます。常設展の更新は大規模に行うとお金がかかってしまいますが、そういったことを繰り返し、展示を充実させていくことを見据えているとご理解いただければと思います。

桐村主幹 特に古文書が読める方であれば一緒に資料を読んでいただいで、読み下し文を資料とともに展示するということがあります。常設展の近世コーナーは来年度展示替えを予定していますが、それに向けて一緒に読んでいただけるととても助かります。そういった形の関わり方もあります。

篠原委員 友の会の古文書いろはの会にとっても積極的に活動されている方がいらして、やりがいを持っておられます。きっと次々と新しい古文書を出していただければ次につながると思います。そういったお話をぜひ年度当初にいただければと思います。

菊池委員 「図書資料の活用が図られている」という点に対して、評価が△となっていますが、市立の図書館と博物館で持っている図書では違いがありますよね。博物館で扱っている図書がどういったものかというのは利用者に伝わっているのでしょうか。

西原副館長 市立の図書館との繋がりはデータ上ではありません。博物館に何があるのか図書館は知らない状況です。そして、市民の方が博物館の図書・蔵書について知るすべというの、公開していませんのでまずないという状況です。また、博物館の図書室入り口に鍵が日常にかかっているということで、レファレンスに使うこともありますけれども、閉鎖的な空間をこちら側から作り出してしまっているという問題もあります。レファレンスでこういった本がありますよ、というご紹介程度しかしていないところが現実です。

加藤委員 同じようなところで、コピーサービスについて、小学生の調べ学習相談などで使われていたかなというところがあります。本を借りて一緒にやったことがあります、コピーをしてあげるとというのが現代に合っているのかなと思います。最近、SNSや動画サイトなどいろいろなメディアがあるのに、コピーをするのかなと。これまでも「コピーサービスなどの体制がつくられ機能している」について△評価が続いているということもありますし、時代に合っているのかなと、その辺りをどうしていけばいいのかなと思います。

伊藤委員長 コピーは無料ですか。

西原副館長 いえ1枚10円かかります。

伊藤委員長 図書館と違って本が少ないのは仕方がないのではないですか。

井口館長 図書資料もそうですが、図書室がありますので、現在でもレファレンスで調べ物をする際に1日中部屋をご利用いただくこともございますが、そこをもっと開放していくということを考えていかねばならないのかなと思っています。

篠原委員 博物館と図書館を結ぶということは可能ですか。

西原副館長 図書館では電算システムがあり図書をデータ管理していますが、博物館ではそれがありません。

小阪課長 博物館に本を持ってきて見ることは可能です。

西原副館長 図書館の本と博物館の本の質が違うので、重複しているものもあると思いますが、博物館にある本の方がより専門的なものが多いので、図書館を補うような本を博物館は持っています。そういう情報を本来は開示できて、図書館で対応できないレファレンスをこちらで対応するとかというのが望ましく、こちら側もそれは分かっているのですが、なかなかそのようなシステムに結び付いていないところがあります。

伊藤委員長 休憩所（そではくのもり）には何か本は置いてありましたか。

西原副館長 子供向けに絵本を置いています。

桐村主幹 学校の図書室へは図書物流システムを使って図書の貸し出しは行っています。ですから、学校へ貸し出すという形で実際には学校の子供たちが図書を見るということは可能です。ただそれには図書掲示板を私たちがチェックし、今こういう本が求められているというのを見てそれに応えるか、あるいはダイレクトに学校から博物館に声をかけていただければ対応できるので、そこでこんな本があるというのを子供たち自身が博物館で探し、その中で借りたい本を先生に伝えるということはできます。ですから、せめて学校くらいとは図書の連携ができるのではないかと思います。

伊藤委員長 例えばHPに図書の一覧を入れるなどそういうことも考えられるのではないですか。少しずつでも興味を持ってもらえるようにすればいいのではないかと思います。

篠原委員 展示室のことについてですが、山野貝塚の展示スペースを作ってくださいりましたが、小学6年生の子などにとってはまだ難しいかなと思いました。博物館は下から上まで様々な年齢の方が来られるのでどこを対象にするのかというところはあるでしょうが、6年生の段階ではまだ読みこなせないといえますか、資料からそのまま載せた図や漢字が難しかったりして、理解できないと思います。説明があればわかるとは思いますが。見出しで「貝塚とはなにか」と簡単に書く等しないと、硬い文だとあまり読めないと思いました。

小阪課長 小学生向けのリーフレットは作っているところです。

篠原委員 それならばいいと思います。

井口館長 博物館にとって本当に難しい問題です。この博物館全体に言えることだと思いますが中学生以上を実はターゲットにしてきたところがあり、今おっしゃられたように小学生向けへのシフトというのは本当に遅れていると思います。

伊藤委員長 今後、小学生高学年向けの内容も是非検討していただければと思います。続いて議題(2)「市川市堀之内貝塚等視察結果について」、事務局より説明をお願いします。

西原副館長 資料に基づき説明。

唐木委員 2週間ぐらい前に山野貝塚の現地を見に行きましたが、貝塚を示す看板はありますがそれしかありません。四角い杭が何か所か打ってありますが、あれは貝塚の範囲を示すものですか。

小阪課長 今のところ、そのようにしかできないというのが現状です。公有地化の

問題がありまして、まだ貝塚の場所は民地、人の土地です。他人様の財産ですので、基本的にできることは看板で示すくらいしかできません。四角い杭はこれから買収、今後入札をかけていきますが、その範囲を決めるものになります。測量をして、どれくらいの範囲かを示す杭です。

唐木委員 貝塚の横に牛糞が捨ててあったり、さつまいもが植えてある現状を見ますと、とてもではありませんが人を案内してこれが貝塚ですという現状でははっきりいってありません。どれくらい整備できるのかははっきりと私にはわかりませんが、もう少し見せる工夫が必要な気がいたします。

西原副館長 先ほど小阪課長からの話にもありましたが、まず現状として民有地ですので市が基本的には手を出せません。今年は山野貝塚全体のうち、何割の土地を買い上げる予定でしたか。

小阪課長 3割ほどです。貝塚のメインとなる部分になります。

西原副館長 そこを買い上げた後に次のステップに移れるということになります。しかしそうしますと、買い上げた土地の草刈りについて、これまでは民有地でしたので問題ありませんでしたが、買い上げ後は市が管理する必要が出てきます。草刈りを行った上で、これまでは現地説明会では貝塚に立ち入りませんでしたが、今後は貝塚内に立ち入ることができるようになります。しかし、部分的な買い上げですので、そこだけ整備するというわけにもいきませんので、まだやはり整備や人を集めるということとなると、その段階にきてないといえます。現在活用と言っておりますが、すぐ明日から活用できるかという現実的にはそうではありません。ただ、時間がかかるからといってこのままでいいかという決してそういうわけではありません。いろいろと試行錯誤しながら、まずは草刈りなどからやっていこうと思っております。先日、茨城県で古墳の活用の一環として、お金をとって草刈りをしてもらうというのがありました。実際草刈りをその場でやってもらうことで古墳に触れてもらうことを目的にしているのかもしれない

が、そういった取り組みを見つけましたので、山野貝塚でも次の活用として考えてみるのも一つの手かもしれません。そうはいつても、なかなか進まないというのが現実的なところですよ。

篠原委員 山野貝塚の保存活用計画については12年計画でしたか。

小阪課長 12年計画です。

西原副館長 その計画については、先ほども申しましたが最終段階に入っており、パブリックコメントに出します。

小阪課長 1月下旬ごろまで山野貝塚の保存活用計画についてパブリックコメントの募集を行います。

西原副館長 その後、計画は公にもなりますので、それを参考にしながら、12年という長いスパンの中で短期的にどう取り組んでいくのかという細かい策を次の計画で考えていきます。今までは保存活用の基本的な考え方をまとめたものでしたが、次のステップではどのように整備をするのかという計画を作り、それを基に整備していきましょうということを段階を踏んでいくこととなります。ですからなかなかすぐにはうまくいかないというところがあります。先ほども申し上げました通り、土地を購入すればするほど自分たちで管理しなければならない土地面積がどんどん増えていき、その中で草刈りも整備もしなければならないという大変な点が残っています。

小阪課長 今は民地なので堆肥が散布されていますが、その分耕すので草が生えないということもあります。購入すれば堆肥はなくなります草も生え、公費で管理していくこととなります。

伊藤委員長 市原市のチバニアンもまだ整備しなくてはならないと、滑りやすく危険という意見がありますね。これからお金を掛けていくと聞きました。

一度にとはいいませんが、少しずつ進めたいですね。加曾利貝塚は大規模な計画をしてしまいましたから大変ですね。実際にはなかなか難しい面もあることと思います。

篠原委員 予算の問題と言われてしまうと何も言えなくなってしまう。山野貝塚のガイダンス施設について要望はしてありましたが、検討中とされています。

伊藤委員長 国の補助金はつきますか。

小阪課長 つくものにつかないものがあります。今行っている土地の購入に際しては8割の国の補助金がつきます。

菊池委員 ボランティアの育成とありますが、その前に、基本的に山野貝塚は郷土博物館が監督する立場なのか、もしそうであれば専門的な知識を持った職員の配置などの問題も出てくることと思います。

西原副館長 管理監督については基本的に生涯学習課になることと思います。博物館は何をするのかとなりますと、活用面の方になります。ですので、ある程度整備までは生涯学習課が行いますが、実質的な活用については博物館に業務が移行してくることと思います。また、維持管理については生涯学習課の担当になります。

小阪課長 維持管理やガイダンスの関係でボランティア等をどのように立ち上げていくかということは来年から着手する予定です。

菊池委員 既に現在多くの事業をやられていて今後さらに増えていきますから、現在の戦力では難しいと思います。

西原副館長 人的なことについては保存活用計画の方でも言われていることと思

ますが、では職員を増やそうとは簡単にできなく、難しいところがあります。では人がいないのであればどうするのかというと、基本的には博物館については今行っている事業を減らしていくしかないというのが現実的なところだと思います。現状の業務を減らす、スクラップアンドビルドをしていきながら新しい事業に力を入れていくということしかやっていけないところがあります。

小阪課長 生涯学習課についても同じです。現状の事業を整理し、どこへどのように力の配分を行っていくかということを考えていかなければなりません。

井口館長 先を見通した計画を作っていく中で役割分担のようなものが決まっていき、博物館の業務量も当然増えていくところで、しっかりとそのことについては協議していかなければなりません。

伊藤委員長 次に報告(1)「郷土博物館における台風被害状況と今後の対応について」、事務局より説明をお願いします。

西原副館長 資料に基づき説明。

篠原委員 災害時に博物館は発電機を借りることはできるのですか。県は数多く持っているとのことでしたが。

西原副館長 借りられないことはないのですが、まずは避難所となっている公共施設や市民の方々が優先されます。博物館は避難所でないため優先されません。

小阪課長 発電機で使えるのは照明程度です。やはり電気の周波数が違うと機械が壊れてしまうことがありますので、最低限の照明を確保する程度になります。

御園教育長 牧場でも使われました。生きた牛を飼っているということで、牛が病気

にならないよう搾乳機等を作動させる必要があったためです。

伊藤委員長 続いて報告(2)「第35回生涯学習推進大会について」、事務局より説明をお願いします。

西原副館長 資料に基づき説明。

加藤委員 友の会が実践発表を行う予定ですね。

武田委員 友の会役員会にて発表者等も決めております。

小阪課長 最終的には12月13日の社会教育会議を経て正式に発表団体が決定となります。

伊藤委員長 よろしいですか。それでは他に事務局より何かありますか。

西原副館長 特にありません。

伊藤委員長 では以上で議事を終わりにしたいと思います。

西原副館長 皆様ありがとうございました。お時間のある方は、この後企画展の見学がございましたので是非ご参加ください。

閉会

令和元年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和元年11月19日(火)
午後2時から
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議 題

(1) 郷土博物館の使命と評価について(40分)

(2) 市川市堀之内貝塚等視察結果について(15分)

(3) その他

5 報 告

(1) 郷土博物館における台風被害状況と今後の対応について(10分)

(2) 第35回袖ヶ浦市生涯学習推進大会について(5分)

(3) その他

6 閉 会(3時20分頃)

会議終了後は、企画展Ⅱ「幕末維新の西上総 おらがの慶応4年」を見学します。
(30分程度)

議題（１）郷土博物館の使命と評価について

1 経緯

平成20年6月に「博物館法」が改正され、同法第9条において運営状況について評価を行うとともに、その結果に基づき、博物館の運営の改善を図るため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが定められた。さらに「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」においても、事業の状況を博物館協議会等の協力を得ながら、自ら点検・評価を行い、その結果を公表するように努めることが示されている。

そのような情勢を受けて袖ヶ浦市郷土博物館では、平成24年7月に『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく30の展望—』を策定した。その内容としては、博物館の4つの使命を遂行するための6つ分野の大きな活動目標を掲げ、今後博物館が目指す30項目の「あるべき姿」を示すとともに、それを達成するための、アクションプランを示した。

【参考】 博物館法条文

(運営の状況に関する評価等)

第九条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第九条の二 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

2 博物館協議会での使命策定と点検・評価の経過

平成23年2月	博物館の地域戦略と使命に関する検討
平成23年7月	博物館の使命に関する共同研究の現状について 博物館の使命と評価に関する計画及び検討
平成24年2月	博物館の地域戦略と使命に関する検討
平成24年7月	『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく30の展望—』策定
平成27年11月	「そではく30の展望」の点検と評価（H27博物館協議会）
平成28年2月	「そではく30の展望」の点検と評価（H27博物館協議会）
平成30年7月	「そではく30の展望」の点検と評価（H30博物館協議会）

3 袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく 30 の展望－

袖博は、地域の資（史）料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに調査研究を推進し、市民のニーズに応じた常設展示の更新、企画展や特別展を計画的に行います。また、そこで得られた成果を市民・学校・社会教育機関・地域に発信し、連携することで地域文化の向上へ貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため施設管理計画を立てるとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、次の4点項目を使命とします。魅力

【使命】

- (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。
- (3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- (4)博物館としての独自性を追求します。

【活動目標】

(1)地域の資（史）料を守る－資（史）料の収集と保管－

地域資（史）料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、市史編さん事業で収集・管理してきた史料を適正に保存管理できる収蔵庫を確保します。

(2) 地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－

地域資（史）料の調査研究を推進し、新たな価値を発見、創造し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるように公表します。

(3) 学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－

市民のニーズに応じた常設展示の更新計画を推進し、資料を身近なものとして捉えることができるとともに、新たな発見や気づきがあるような展示をします。また、企画展や特別展を計画的に開催し、市民の多様な学習意欲に応えるとともに、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画します。

(4) 地域のつながりを活かす－地域連携の展開－

市民の多様な学習を支援するために調査研究や展示成果を発表し、市民が新たな価値を発見、創造できるような生涯学習の拠点とします。また、小・中・高等学校との連携により多種・多様なプログラムを開発し利用促進することで、子どもたちにより良い教育環境を提供します。

他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域の歴史や文化を深く理解する機会を推進します。

(5) 安心・安全な施設にする－改善と維持管理－

市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行うとともに、施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てます。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。

(6)袖博らしさを追求するーマネジメント力の強化ー

周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開を図ります。また、博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるために博物館で必要となる新たな研究者や専門家の人材確保の契機にします。

(『袖ヶ浦市郷土博物館の使命ーそではく 30 の展望ー』平成 24 年 7 月より引用)

4. 郷土博物館事業実績値一覧

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値 (H30)
入館者数(人)	56,930	64,965	74,880	71,900	56,438	60,815	
本館	27,769	31,417	36,120	33,811	34,460	34,755	32,500
なるほど館	10,738	11,842	13,347	12,189	12,501	13,554	
旧進藤家	18,423	21,706	25,413	25,900	9,477	12,506	
企画展開催回数 (回)	3	3	3	3	3	4	2 (継続事業含む)
企画展・特別展 入館者数(人)	18,359	19,452	19,509	19,295	25,301	25,251 14,081	21,000 (継続事業含む)
なるほど館ロビー 展(回)	12	9	11	9	8	10	6 (継続事業含む)
HP アクセス数 (件)	5,564	6,263	5,393	8,835	10,800	11,245	5,000
保存修復資料数 (点)	9	—	48	43	42	22	
館蔵資料データ ベース化(件)	—	1,400	880	1,500	1,500	1,500	1,500
収蔵資料デジタル 化(枚)	566	940	—	835	801	—	
資料保存箱製作 (個)	—	—	150	149	150	100	
市史研究刊行(号)	—	17	—	18	—	19	隔年刊行
資料購入(点)	—	—	—	—	1	8	
校外学習支援(校)	20	20	20	23	21	17	15
アウトリーチ活 動(件)	5	7	5	4	5	6	3
資料貸出し(件)	16	9	4	19	69	17	
学習相談(件)	46	46	18	10	14	7	

職場体験(校)	5	2	2	2	4	2	
福祉施設見学者数(人)	—	—	—	—	—	421	
博物館実習(校)	2	2	1	3	3	2	
博物館講座(回)	6	5	5	6	6	6	袖ヶ浦学
MF入場者数(校)	2,714	1,833	3,173	2,211	3,221	4,198	
市民学芸員数	31	30	28	33	34	34	
市民学芸員研修会(回)	—	—	—	—	—	2	
友の会会員数	56	54	56	61	64	69	
友の会だより発行(号)	38	39	40	41 臨時号	42 43	44 45	
上総掘り会員数	14	12	12	7	14	13	
協働事業実施回数	—	—	—	—	—	10	5 令和元年より指標
寄贈された資料	45	1,197	143	1	37	194	
資料保存修復	67	—	48	43	71	22	

※MF：ミュージアム・フェスティバル アウトリーチ：出前授業、出前展示

5. 自己評価

『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく30の展望—』に示された6つの活動目標を達成するために示した、30項目の「あるべき姿」に対して、「平成30年度の取り組み」、「成果・効果」、を踏まえて、自己評価したものである。

なお、評価にあたっては、下記の達成度で評価しているが、定数的な評価が難しい項目が多いため、主観的な達成度として示している。

◎目的（あるべき姿）に限りなく到達した項目

○目的にある程度達した項目

△取り組んだが目的に達しなかった項目

×取り組まなかった項目

平成30年度評価結果 ※（ ）は平成29年度との比較

◎：11項目（1減）

○：16項目（3増）

△：3項目（2減）

×：0項目（増減無）

6. そではく30の展望評価結果

活動指標	あるべき姿	30年度 評価	29年度 評価
(1)地域の資(史)料を守る－資(史)料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	◎	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	○	○
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	○	△
(2)地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－	1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	○	○
	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行われている。	○	△
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	◎	◎
	4.調査研究の成果が公開されている。	◎	◎
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	◎	◎
	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	◎	◎
	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	○	○
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	◎	◎
	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている	○	○
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	◎	◎
	7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	◎	◎
	8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	△	△
	9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	◎	◎
	10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくられ機能している。	△	△
	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしが行えるような工夫がある。	○	○
	12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	○	◎

	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	○	○
(4)地域のつながりを活かす —地域連携の展開—	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	○	○
	2.博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。	○	◎
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	○	○
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。	◎	◎
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	◎	○
(5)安心・安全な施設にする —改善と維持管理—	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	○	○
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	△	△
(6)袖博らしさを追求する —マネジメント力の強化—	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	○	○
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	○	○
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができている。	○	○

そではく30の展望

◎目的(あるべき姿)に限りなく到達した項目 ○目的にある程度達した項目
 △取り組んだが目的に達しなかった項目 ×取り組まなかった項目

活動目標	あるべき姿	平成30年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今度の対応
(1) 地域の資料を守る	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理 第1収蔵庫 25℃ 湿度60%以下 (26℃ 湿度63%) 第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後 (25℃ 湿度54%) 第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後 (25℃、湿度65%) ※()内は台風15号の停電時状況 ・収蔵環境調査 (6月と2月の年2回) 結果：第2収蔵庫 酸性環境 第4・5収蔵庫 ガ発生確認 ・特別休館日を設け、収蔵庫内の清掃と資料の整理 平成30年12月18日～12月27日 ・防虫防塵除菌処理委託 結果：文化財害虫の餌や住処となる塵やカビ類を専用器具による清掃で取り除いた。 シロアリの痕跡を第2収蔵庫で新たに確認した。 ・資料燻蒸業務委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な管理により、適切に保管しているとも言える。 ・年2回の環境調査を実施したことにより、害虫の状況を把握することができた。 ・収蔵庫2では専門業者による清掃を行い、害虫の生息しにくい環境を整備できた。防虫テープの施工により、新たな害虫の侵入を抑制することができた。 ・特別休館期間の資料整理により、資料の現状把握や清掃をすることができた。市民学芸員の協力も得ることができ、博物館と市民による協働で作業を進めることができた。 ・シロアリ被害を発見することができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫の温湿度を適正に管理するためには現状の空調機では老朽化による問題があり、注意が必要。 ・博物館の老朽化が著しく、資料を保存していくためには問題がある。 ・冬季の環境調査は害虫の活動時期でない。 ・環境調査のトラップ等は、より実態に即した調査結果が得られるように再検討が必要。 ・収蔵庫2のシロアリ侵入対策として、再度の侵入に対して注視する必要がある。 ・収蔵庫が飽和状態にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫の空調機は新設も踏まえた機器の在り方を検討する。 ・大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。 ・冬季の環境調査から秋季の実施に見直す。 ・環境調査の手法や内容について検討する。 ・収蔵庫2で再度シロアリが侵入しないよう、モルタル等で塞ぐ必要がある。 ・環境調査の手法等の内容の再検討。 ・収蔵庫施設もしくはスペースを確保できるように検討する。 ・新たな資料の収蔵場所を検討するとともに、これまでの資料の収蔵方法を見直す。
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料保存箱(中性紙段ボール)を製作、新旧の保存箱の交換 (平成27年度～) 100箱製作 549/700箱 ※令和元年終了予定 ・古文書等の表題データベース作成し、活用並びに情報公開に備えた。 年1,500件処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存箱製作については、計画通りではないが製作を進め、製作後は古文書の箱の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。 ・古文書のデータベース化を進めた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保存箱の入れ替え作業があまり進んでいない。 ・未整理の古文書分量を把握し、終了時期等を定め、計画的に進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存箱の入れ替え作業を進める。 ・未整理の古文書の量を把握し、作業量と期間を算定する。
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の修復委託 ：平成22年度～旧奈良輪漁組文書 22点実施 621/1,132点 ：平成16年度～埋蔵文化財ポジフィルムのデジタル化 平成30年度は実施なし。 ：平成21年度～考古資料(鉄製品)の保存処理の業務委託(国庫補助事業) ※生涯学習課で実施 ・近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。(臨時職員雇用) ・特別休館日を設け、収蔵庫2の資料の点検を行った。 平成30年12月18日～12月27日 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財写真のデジタル化については、計画を見直して先送りにすることとし、平成30年度は実施しなかった。 ・資料整理に専従する臨時職員を雇用したことにより、近年受け入れた民具の一部を把握とデータベース作成を進めることができた。 ・特別休館日を設け、収蔵庫2の清掃と点検を行うことができ、一部の資料の状況を確認できた。 ・清掃を行い、文化財害虫を確認することができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財写真のデジタル化委託については、限られた予算の中では、継続していくことが難しい。 ・修復資料の優先順位が定まっていなかったことや限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数が限られる。 ・近年受け入れた民具の整理の把握に時間を要する。 ・文化財害虫が発見されているため、管理に注意を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財写真デジタル化については、次年度に繰越して実施していくとともに、その手法についても検討する。 ・収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。 修復室用な資料を把握するためにも、古文書等、収蔵資料の劣化状況の確認に努めていく。 ・近年受け入れた民具については、引き続き臨時職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。 ・年末に行った収蔵庫の清掃や整理作業については、継続的・計画的に行っていく。
1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の実施 山野貝塚に関する調査、袖ヶ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の成果を講座や特別展・企画展の一部に反映できた。 ・新たに収集した地域資料の調査研究で得た新たな知見を展示という形で市民に公開することができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・他業務等により職員の調査研究のための時間を確保や継続的に取り組んで行くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究できる状況を確保できるように努めることやスクラップアンドビルドも検討する。 	

活動目標	あるべき姿	平成30年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今度の対応
(2) 地域を探り、発信する	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行えている。	<ul style="list-style-type: none"> 博物館ホームページ上で収蔵資料リストの公開 1,500件の古文書のデータベース化 臨時職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がホームページを介して情報を得やすい環境をつくることのできた。 新たな資料のデータベース化や台帳の作成を行い、検索や管理しやすい体制づくりを進めた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> HPでは新たなデータが更新されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たなデータを更新するように努める。
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈や古文書などの資料購入などによる資料の集積 寄贈資料 194件 資料購入 古記録8件 『市史研究』の原稿として、研究者や市民から地域資料に関する研究成果を集めることのできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈や購入などによる新規の資料・情報を収集・保管することのできた。 市史研究の原稿や地域資料に関する研究成果が集まった。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料が博物館に集積する流れが広まっていない（周知されていない）。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげる。
	4.調査研究の成果が公開されている。	<ul style="list-style-type: none"> 市史研究の隔年刊行 第19号刊行 企画展・特別展では、調査研究の成果が公開されている。 特別展「山野貝塚のヒミツを探る」 企画展Ⅰ「地図を持って出かけよう！石井更幸コレクションに見る内房の交通と観光」 企画展Ⅱ「くらし・おひろめ - 新収蔵資料展 -」 袖ヶ浦学では企画展に関連した調査研究成果の発表のほか、地域を見つめ直す題材の研究発表も行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の成果を展覧会として公開し、また、展示パンフレット、市史研究の発刊などにより、市民及び来館者に情報を還元することのできた。特に企画展Ⅱでは、寄贈等により収集・保管している資料を展示することにより、地域資料を内外に発信することができた。 調査研究の成果を展覧会や市史研究の発刊などにより、市民及び来館者に還元することができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 市史研究は一般市民にはレベルが高い。 調査研究の成果は展示会や市史研究などの紙面だけでなく、博物館ホームページでも公開し、だれもが学べる機会を提供する必要がある。 袖ヶ浦学等の講座では、市民ニーズに応じたテーマを設定できているか検証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市史研究は一般市民にはレベルが高く、関心がもたれないため、企画展パンフレット以外にも、一般市民でも理解できるような情報提供手段を検討する。 調査研究成果の情報公開手段を紙面に限らず様々な方面から検討する。 地域課題を調査し、袖ヶ浦学のテーマを検討していく。
	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の通史展示を部分的に更新、調査研究の成果の一環として企画展・特別展を開催した。 平成28年度～ 歴史展示室の原始コーナー（縄文時代・弥生時代の一部） 山野貝塚常設展示室の創設 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。 新しい学びの場を提供したことにより、利用者の知識が高まった。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 第3次展示基本構想が停止したままとなっており、改修計画とあわせて検討する必要がある。 更新していない民俗展示室や上総掘り展示室の展示更新に行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 展示更新未着手の常設展示の更新を進めていく。 収蔵資料を活用した部分的な展示更新や上総掘りの展示室の更新を図る。
	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資料を展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。 特別展・企画展の開催 ※企画展Ⅰ 行ってみようマップ 作製を作成。 その他ロビー展等で地域資料を展示 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料を展示することで利用者の知らなかった地域の重要な資料やその情報を提供することができた。 知ってみようマップの作製は、市民が地域の知られていない文化財などを知るためには有効な手段であった。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものとして捉えられる資料を選定するために、市民ニーズを把握しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズを把握するためには、企画展やロビー展アンケート以外に常時行う必要がある。
	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 展示構成及びパネル解説など理解しやすい展示に心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 展示更新では新たな展示資料の選定を行うとともに、理解しやすいパネル作成に努め、利用者の理解を深めることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 現状の展示構成は、来館者が参画できる双方向性のある展示になっていない。 パネル解説や図の内容について、利用者の目線での改良が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加体験型を始めとした双方向性のある展示手法の調査研究を行っている。 解説文や図がわかりやすいかチェックし、必要に応じて更新していく。
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> 年2～3回の企画展に加え、トピックス展示やロビー展を話題性に応じて開催した。 平成30年度企画展3回、特別展1回（継続事業）、ロビー展10回、トピックス展1回（継続事業） 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展や特別展の開催により、市民の学習意欲を高め袖ヶ浦市の歴史や文化への理解が高まり、さらには地域資料の活用を図ることができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 企画展や特別展の開催により、市民の学習意欲を高め袖ヶ浦市の歴史や文化への理解が高まり、さらには地域資料の活用を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展については、中長期的な展示計画を定めるよう努める。

活動目標	あるべき姿	平成30年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今度の対応
(3) 学習・知的 交流の拠 点になる	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている。	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員や友の会が企画したロビー展をアクアラインなるほど館で行った。 ソデフローラVI 植物画展 11/11～12/16 にっぽんの郷土風 1/9～2/3 早春花展 3/15～3/17 袖ヶ浦ナイススポット再発見！ 3/23～4/14 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 過去に行っていたような市民学芸員の大規模な企画展を行っていない。(調査研究を行っていない。) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員全体会議などで今後の企画展等について検討する。
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新、市ホームページやSNS利用し、情報提供を積極的に行った。 ホームページアクセス件数 11,245件 	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達手段を増やすことで多くの人々に発信することができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> イベント等の情報発信については提供できているが、展示等における情報発信機器の老朽化が著しい。 データの更新などに時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示のリニューアルにあわせて情報展示機器も更新するように計画していく。 ユーチューブなどを効果的に活用する。 すべての職員がホームページや動画などを更新できるように技術的な知識を取得し、特定職員のみには負担がからないようにする。
	7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアム・フェスティバルや市民学芸員子どもの日イベント等、各種教育普及事業を開催し、来館しやすい状況を提供した。 ミュージアム・フェスティバル 4,198人 フィールド・アドベンチャー (3回) 66人 こどもの日イベント「市民学芸員と遊ぼう！」 597人 	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアム・フェスティバルや子どもの日イベントでは、通常利用の少ない親子連れが多く参加し、博物館を知り、博物館ならではの体験をするなどの成果が認められた。 ミュージアム・フェスティバルはこれまでの実績により認知度が高まり、リピーターが増加している。 ミュージアム・フェスティバルはイベントがマンネリ化していたが、貝輪づくりを新たなコーナーとして実施し、縄文時代の技術に触れることができた。 イベントなどを開催することにより、袖ヶ浦公園を利用する親子連れが、博物館を気軽に利用するようになった。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 博物館に来館しない人々のニーズを掘り起こし、体験イベント以外の講習・講座を実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験イベントでの集客で満足するのではなく、市民ニーズのある講座なども実施していくように努める。
	8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> 展示会でのアンケート調査やこれまで開催してきた講演・講座により利用者のニーズを把握し、実施するとともに、今後の企画に備えるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野の講座を実施することにより、多くの市民のニーズに応えることができた。 	△	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査では、博物館に来館しない人々のニーズの掘り起こしが難しい。 アンケート結果にある市民ニーズに見合った講習や講座の開催、さらには常設展示や企画展に必ずしも反映されているとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き館外でのアンケート調査の実施や、他館事業の調査を行う。
	9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> 博物館ホームページ、市ホームページ・ツイッター・テレビ撮影を利用したPR活動や情報提供。 新聞、地域紙、テレビ撮影等の媒体を活用した情報掲載 	<ul style="list-style-type: none"> メディアの種類を増やすことでより多くの人にPRすることができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> PR活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、利用したことのない市民も未だ多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。 来館につながった人々が利用したメディア等について分析を行う。
	10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつけられ機能している。	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料などの貸出サービス 図書・資料等の貸出 2件14点 図書室での図書閲覧やコピーサービス 図書室利用者 10名 コピーサービス 34件 	<ul style="list-style-type: none"> 物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。 図書のコピーサービスや図書利用などの活用を図れた。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 物流ネットワークを整備されているものの、昨年に引き続き、利用が促進されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークを活用できる体制を整える。 社会科の教員等の連携を図れるように検討する。

活動目標	あるべき姿	平成30年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今度の対応
	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしがおこなえるような工夫がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・新興住宅地の若い世代などの家族が、ミュージアム・フェスティバルや子どもの日イベント、新春凧あげ会等の教育普及事業に参画し、古代の技術の学びや昔遊び体験を行った。 ・友の会や市民学芸員間内で地域の伝統文化・技術を得ている会員との交流。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験などの企画運営を通して昔の文化について知ることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・体験等の企画運営により文化の掘り起こしに取り組んでいるが、新旧住民交流を目指した事業の効果を明確に示すことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる新旧住民交流が図れる事業を実施することを検討する。
	12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やミュージアム・フェスティバルでの役割を担っている。 市民学芸員 35名 博物館友の会 71名 (令和元年5月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員や友の会会員が参画する体制は構築されているが、新たな市民の参画の歩みが遅い。 ・参加する市民の固定化や高齢化が進んでいる。 ・市民が参画する体制は構築されているが、個々のニーズに合った参画方法の検討が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館活動への参加についてのアピールを続けるとともに、市民のニーズに見合った事業、さらには魅力的な事業を展開することにより、利用者が単独で気軽に参画できる体制を検討する。
	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度にリニューアルした「そではくのもり」を小さな子どもを連れた親子が利用しやすいように案内を行った。 ・利用しやすいように環境を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験などの企画運営を通して昔の文化について知ることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「そではくのもり」の認知度が低く、奥まった場所にあるため、わかりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そではくのもり」の掲示を行い広く周知及び誘導する。 ・備品については修理・購入などにより更新する。
(4) 地域のつながりを活かす	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種情報の管理と各種問い合わせに応じた対応 各種問い合わせ 60件 ・調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開 調査研究、企画展・特別展・ロビー展等の開催、企画展パンフレット刊行、市史研究等の研究成果の発表等 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。 ・市内に限らず市外、県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や情報の整理ができていないところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資料や情報の整理及び把握に努める。
	2.博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2～3回の企画展や特別展、ロビー展。 ・袖ヶ浦学などの講座も開催し、学びの拠点となった。 ・博物館を拠点とする団体が一体となって、教育普及事業を実施した。 ：ミュージアム・フェスティバル ：こどもの日イベント ：十五夜コンサート など ・博物館を拠点として活動している団体による地域貢献 ：博物館友の会「旧進藤家住宅リニューアルオープン」（博物館と共催） ：友の会古文書いろはの会「百人一首にチャレンジしてみよう！」 ：市民学芸員「平岡地区の文化財を訪ねてみよう！」 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。 ・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館を拠点として学んだ団体等が自発的な連携までには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館を利用する機関・地域・団体等が気軽に博物館を中心につながっていきけるような、コーディネートをしていくことに努めていく。 ・地域がつながるシステム構築イメージの視覚化を行い、博物館を拠点として周知を図る。
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と市民学芸員が連携して、市内各地域の文化財マップの作製に向けた調査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財マップは連携した調査活動により、文化財の価値の新たな発見などの成果があった。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携イメージの共有が図れていないので、地域情報を伝達する方法や手段が管理されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携のイメージが理解されやすく、実践できるような体制づくりを検討する。

活動目標	あるべき姿	平成30年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今度の対応
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年生、6年生の校外学習支援 ・出前事業や実物資料、教材の貸し出し、教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 ・教員の修の受け入れや教育カリキュラム相談 ・小中学生の調べる学習への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・市外の学校については、対応する職員人員や体制が整わないため、市内小学校と同じ対応ができているとは言えない。 ・学校・教員側の事業へのかかわりが浅くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市外小学校からの依頼については、資料を貸し出すとともに、指導方法等を教員へ周知して対応してもらう。 ・事前打ち合わせ等で教員等に博学連携や体験学習の趣旨や教員の役割について理解してもらう。
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外施設や機関へ講師等の派遣 8件（うち市民学芸員1件、友の会2件） ・君津地方公立博物館協議会へ参加 研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。 ・博図公連携事業へ参加 ・『昭和・平成を築いてきたエチレンプラントー住友化学の産業技術ー』9/26～10/28 企業からの寄贈品とその産業技術に関する展示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育機関や他市博物館、さらには近年縁遠かった企業と連携を深めることができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の企画展では企業と連携した展示も行ったことがあるが、積極的に地域の企業との連携は図れていない。 ・ミュージアム・フェスティバルでは高校やNPOとの連携が図れているが、学びの面での連携が浅い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先々の事業で他機関とどのような連携が図れるか、またその効果について検討する。
(5) 安心・安全な施設にする	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設、設備の点検の実施及び修理の実施 ・急な故障や破損等の修繕 ・月1回の安全点検の実施 ・施設の調査と改修工事計画の策定 ・旧進藤家住宅茅葺屋根改修工事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。 ・博物館施設や設備の老朽化や不具合については調査を行い、具体的な内容が明らかとなった。 ・旧進藤家住宅は第3期実施計画事業として、平成29・30年度で茅葺屋根等改修工事を行い、終了した。その結果、市指定文化財の保存を図ることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館施設や設備の老朽化や不具合が明らかとなり、改修工事の必要性が明らかとなったが、具体的な工事の実施時期が定まっていない。 ・アクアラインなるほど館や古代復元住居の設備や施設にも老朽化が目立つようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修工事を実施するよう庁内で調整をはかる。 ・古代復元住居については、改修箇所を明らかにし、修繕できるように調整する。
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者誘導用ブロックの修繕を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者誘導用ブロックの修繕を行い、つまずき等の障害を改善した。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・館全体的なユニバーサルデザイン計画がない。 ・本館入口のドアが重く、高齢者や子どもには利用しづらい。 ・多言語化など日本人に限らず誰しもが博物館に訪れ、学習する施設となっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査していく必要がある。 ・多言語化については、未着手であることから、可能なことから対応していきたい。
(6) 袖博らしさを追求する	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ケ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド・アドベンチャーによる袖ケ浦公園における野鳥観察 ・フィールド・アドベンチャー「冬の野鳥観察会 ～上池の鳥たち～」(2/17) ・袖ケ浦公園管理組合が実施する「動植物観察会」への事業協力による連携 ・関係団体と連携により、植物やホテルの観察会などの事業実施（袖ケ浦公園以外） 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド・アドベンチャーでは、袖ケ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ケ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館単独の事業で袖ケ浦公園を扱っているが、大学や研究機関と連携して事業展開が図れていない。 ・袖ケ浦公園の特性を活かした魅力ある事業展開が積極的に実施されているとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関との連携について検討する。 ・ロビー展などのアンケート結果を踏まえ、袖ケ浦公園に関連する魅力ある企画を検討する。 ・他機関とどのような体制で連携すべきかなど、先進事例なども調査する。
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と市民学芸員の連携による文化財マップの作成（成果は平成30年度刊行） ・市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史を解明するため、博物館と市民が一体となった活動が行われていない。 ・テーマを絞った継続的な講座や活動が行われていないので、歴史の解明や深化まで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、次のステップとして博物館とともに研究できるような人材を育成する。
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研究者から袖ケ浦市史研究への寄稿 ・調査においての新たな研究者による助言 ・博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成 <p>博物館実習生 2名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。 ・専門的な見地から助言をいただき、博物館活動に良い効果を得ることができた。 ・次代を担う新たな学芸員を育成することができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな研究者を確保することができているが、さらに一歩踏み込んだ体制にまではなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。

議題（２） 市川市堀之内貝塚等視察結果について

第 1 回袖ヶ浦市郷土博物館協議会視察結果について（とりまとめ）

1. 今回の視察した結果、貝塚について理解しやすい展示や整備（屋内・野外を問わず）がありましたか。ありましたらその内容を記載してください。

- ・小学校への常設展示は、興味につながる。袖ヶ浦市内の小学校では、多分知っているのは6年生が中心だと思うので、全校に興味を持ってもらうには、1か月単位に出前縄文コーナーを設けさせて頂くのも良い方法かも知れない。
- ・クジラが大きくてインパクト有り。博物館でもマダイ・クロダイなどパネルで天井から吊り下げるものがあるのも良いかもしれない。
- ・堀之内貝塚での散策コースが良かった。ただし、わかりやすい案内がなかった。考古博物館でのイベントは楽しいと思う。
- ・貝塚の内容など小学校に表示して興味を持ってもらうには、大変良いと思います。また公民館とか人の多く集まる所などに貝塚の内容を具体的に表示出来れば、皆様方に興味をもってもらえるのではないかと。
- ・考古博物館に展示してあった貝層と舟の実物展示。
- ・考古博物館 2F 床の写真に貝塚を表示してあったものがとても興味深い。（袖ヶ浦市内の遺跡の地図をパンフレットでは見るが、床に広げるのはいいかもしれないと思った。）
- ・企画展の展示物が多過ぎず、少な過ぎず見て回るのにはちょうど良いボリュームだったと思います。展示ケースの奥行きも奥が遠すぎず見易かったです。
- ・堀之内貝塚は貝が表出しているの、リアルに縄文を感じられている場所だと思います。
- ・姥山貝塚は整地されていますが、全体像を感じられました。説明もわかり易かった。

2. 今回の視察により将来的な山野貝塚の活用方法、整備方法等、具体的に考えることがありましたら自由に記載してください。

- ・堀之内貝塚の場合は、森の中ということもあり、草があまり無く、貝殻の上を歩くことができ、良かったと思う。ただし、姥山貝塚は山野貝塚と同じような、ほぼ平坦地で草が全面に生えていた。貝殻も少しは見えていたものの、貝塚というイメージから離れてしまうような気がした。やはり、貝層断面の施設を作ることにより、「本物」を見せたいと思った。
- ・何も無いと市民からドックランに・・・という意見が出てくるのは仕方がないかもしれない。ガイダンス施設・貝層断面施設・竪穴式住居は最低限あった方が良く思う。
- ・姥山貝塚は、都市公園であり、案内板だけではわかりづらい。又、灰皿があり多少問題ではないか。
- ・ボランティアは高齢化しており、今後問題が出そう。
- ・見学した姥山貝塚は専門家には良いと思いますが、一般の人には公園としら見られない。山野貝塚の保存は考えた方が良く思います。
例えば見学額通路上から貝塚の地層が見学出来る事を取り入れるなど

・貝塚として

貝層が見える状態での展示が望ましい。

例えば、何かコーティング剤などを使い、地面（貝の見える場所）を覆い、常時見える状態にできないか？

覆った所と何もしない草地と1mおきでも良い。 見せる工夫。

・駐車場として

周りの畑を持ち主さんとの交渉になるが、畑を駐車場として借りるか、買いあげるか。近くに駐車場があった方がよいと思う。

・出来れば貝塚の断面を見られるようにしてほしい。（本物に勝るものはないかと）

・貝塚の脇でも良いので、解説コーナーが欲しい。

・保存会のようなボランティア組織が作られたら維持管理や広報活動に役立っていくのでは。

3. 前回の視察の際にもお伺いしましたが、郷土博物館と山野貝塚の相互の有効的な活用をはかっていくには、両者の距離が離れているため、検討しなければならない課題の一つとしてあげられます。今回の視察で参考になることがありましたら、自由に記載してください。

・ガイダンス施設は必要。博物館は展示場所が狭いので展示の苦勞が窺える。ガイダンス施設で補足できればと思う。

・一般の方は、博物館と山野貝塚のみ行く方が多いのではないかと思います。駐車場の確保は大切。

・現地に案内する人をプレハブで配置したら良いと思います。

・博物館からマップを作成し、配布したら良いのでは。

・散策道の整備も必要だと思う。また現地に大型車の駐車場も必要になってくる。

・「ボランティアさんがいっしょにまわって案内すること」とても良いと思う。

・スマホを使って、案内のガイダンスが流れる方式も取り入れたら、これから先の世代に役立つかと思う。（ガイダンス用の施設とか、ボードとかにつける。）

・袖博⇒角山⇒山野貝塚 の散策道も良い。

・袖博⇒各々の古墳⇒山野貝塚の散策も良い。

・山野貝塚の近い所に駐車場が欲しい。

・博物館から山野までの遊歩道があれば行き来し易い。

・博物館に山野貝塚の専用広報スペースがあると広く市民に知ってもらえるのでは。

・ゆりの里や各公民館に常設でパネルなどを展示してもらおう。

4. 今回の視察で気が付いたこと、イメージすること、ボランティアとの協働に関することなどありましたら、自由に記載してください。

・まず、「遺跡に来てもらう」という視点がとてもよいと思う。特に、これからの世代を担う子供たちにきてもらい、育てようという気持ちが伝わってきた。

- ・「曾谷縄文まつり」は、熱心な議員さんがいて、今は自治会を中心に行っているということ、それが25年も続いているのは、すばらしいと思う。山野貝塚の場合は、どうなるかわからないが、「山野縄文まつり」で遺跡に来てもらうことは可能だと思う。
- ・ボランティアやお祭りでは、担当の方が長年外部的なものに関わってこられ、外部とのコミュニケーションもとられているので、うまく機能していると感じた。勤務年数もあると思うが、窓口になられる方はある程度長く関わっていける方がいらっしゃるといふなと思った。
- ・博物館の封筒のみらいくんの隣に縄文土器？のような絵を付けたりしても良いかも・・・。(市川の封筒にあったので) 袖ヶ浦市の封筒もあれば、市全体が縄文というイメージになるかも。
- ・できるだけ安くというのは国としては、仕方ないと思う。竪穴式住居に1千万円かかると伺いびっくりした。“竪穴式住居を一緒に作りませんか”プロジェクトを立ち上げるのも(可能であれば)一つの方法かと思う。そうすれば、市民にお手伝い頂けるのではと思う。
- ・逆に分かりやすい貝塚にする必要がある。
- ・貝塚が分かるような断層形式にした方がわかりやすい。(1か所でも良いと思います。)
- ・大勢の人に見学に来てもらえるように整備(道路・貝塚)する。
- ・ボランティアに関して数多く教育することが必要となる。早め早めの対応が考えられる。
- ・貝塚の露出の一部をそのまま残し、建物の下で保存できませんか。
- ・現ボランティアの高齢化ということが一番気にかかっている。(袖博でも同様なことが・・・)
- ・新しく山野貝塚のためにボランティアを募集・育成することも良いと思う。
- ・保存は人もお金もかかる。だからといってあきらめては後世に伝えてはいけないと思います。小さなことからでも気付いたこと、ひらめいたことがあれば実行していけるような空気を作っていくことが大切かなど。
- ・市民の中に必ず興味のある人はいると思うので、そういった人たちの力を生かせる場の提供。
- ・地域住民とのつながりで作っていく。(自治会への説明会など)(ここでは根形・蔵波地区の住民となるでしょうか)
- ・市民の大人が山野貝塚について、どこまで知っているのでしょうか。特に新興住宅地。
- ・子どもは教科書でしか学ばないので、博物館が歴史を伝えていくことが大事。足を運んでもらう環境を整え、展示で感動を与える。博物館の力が大きい。

報 告

(1) 郷土博物館における台風被害状況と今後の対応について

令和元年9月から10月にかけて発生した台風15号及び台風19号は、記録的な強風と大雨で県内各地に甚大な被害をもたらした。

郷土博物館においても、長期間に亘る停電や施設の損壊、敷地内樹木が倒れるなどの被害を受けた。

①被害状況

No.	場所	内容	被害額（修繕見積額）
1	本館	停電（9月9日～9月18日）	—
2	本館	屋根ケラバ・樋金属材が複数箇所で脱落	2,387,000円
3	本館	樋金属材脱落箇所より階下に雨漏り	423,472円
4	旧進藤家住宅	外塀倒壊、外壁漆喰剥落、茅葺屋根及び建具破損	3,905,000円
5	奈良時代復元住居	棟部杉板が強風で吹き飛ば	632,500円
6	収蔵庫5	出入口アルミ製ドア損壊	136,400円
7	敷地内全域	強風による倒木、折木多数	2,400,000円（概算）

②今後の対応

上述したように今回の台風では、県内各地で広範囲に被害を受けており、修繕を行う業者が不足し手配が難しい状況であるが、郷土博物館敷地内における来館者の安全を第一に考え、被災箇所を順次修繕していく予定である。

具体的には、敷地内の倒木伐採処理、収蔵庫5ドア修繕、旧進藤家住宅復旧工事及び奈良時代復元住居修繕については、今年度中に実施する。

また、本館屋根ケラバ・樋脱落及び雨漏り箇所については、来年度以降に予算を確保し、修繕を進めていく予定である。

郷土博物館本館屋根被災写真



本館正面



本館東側



郷土博物館旧進藤家住宅被災状況写真





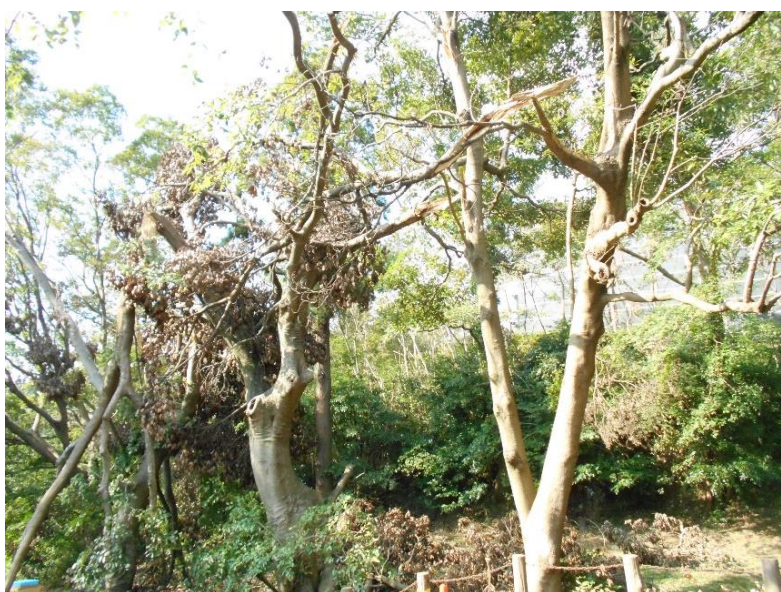
郷土博物館奈良時代復元住居棟部被災状況写真



郷土博物館収蔵庫 5 被災状況写真



郷土博物館敷地内樹木被災状況写真







袖ヶ浦市郷土博物館協議会

委員長 伊藤 誠 様

袖教生第 2 2 7 4 号

令和元年10月15日

袖ヶ浦市社会教育委員

委員長 二宮 義文

第35回袖ヶ浦市生涯学習推進大会実行委員の選出について（依頼）

清秋の候、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本市生涯学習の推進につきまして、格別なるご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和2年2月15日（土）に開催予定の「第35回袖ヶ浦市生涯学習推進大会」が昨年引き続き、実行委員制で運営されることとなりました。

つきましては下記のとおり、実行委員をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 依頼内容

貴団体より実行委員 **1名** を選出し、別紙推薦書の提出をお願いします。

ご推薦いただいた実行委員様に、別紙の実行委員会開催通知をお渡しく下さい。

2. 推薦書提出締切 **令和元年11月1日(金)**

3. 今後の実行委員スケジュール

第1回実行委員会議 令和元年11月 8日（金）18：30～【袖ヶ浦市役所旧館3F大会議室】

第2回実行委員会議 令和2年 1月31日（金）18：30～【袖ヶ浦市役所旧館3F大会議室】

生涯学習推進大会当日 令和2年 2月15日（土）10：30～【袖ヶ浦市民会館】

4. 添付文書

①「生涯学習推進大会実行委員推薦書」

②「第35回袖ヶ浦市生涯学習推進大会実行委員会議の開催について（通知）」

③「第35回袖ヶ浦市生涯学習推進大会要項」

【提出先・連絡先】教育委員会生涯学習課

担当：小川 TEL62-3743（直通）

第35回 袖ヶ浦市生涯学習推進大会要項

1. 趣旨

少子高齢化・都市化・情報化が進み、地域や人どうしの結びつきが希薄になりつつある昨今、以前のように他者と深く関わりながら生きていくことは、より困難になりつつあります。

流動化と孤立化に代表される社会変化の中では個人のニーズが重視される反面、つながり関わる中で生まれる“絆”は、人生をより豊かで生きがいのあるものに変えていく力を持っています。

袖ヶ浦市では、市内にある社会教育関係機関、団体、そして個人が緊密につながりあい、支え合いながら幅広く学習機会を提供し合うことで、人々が、いつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に活かされるような地域社会を目指しています。

このような中、生涯を通して学習することの意義について市民の理解を一層深めるとともに、学習意欲の向上と学習活動への参加の促進を図ります。

2. 大会テーマ

「学び つながり 支えあうまち そでがうら」

3. 主催 袖ヶ浦市社会教育委員 袖ヶ浦市教育委員会

4. 主管 袖ヶ浦市生涯学習推進大会実行委員会

5. 期日 令和2年2月15日(土)

6. 会場 袖ヶ浦市民会館 大ホール

7. 日程 12:30 ~ 13:00 受付

13:00 ~ 14:20 【第1部】

(1) 開会のことば(袖ヶ浦市社会教育委員委員長)

(2) 生涯学習奨励賞授与・市長あいさつ

(3) 感謝状贈呈・教育長あいさつ

(4) 来賓祝辞(県議会議員・市議会議員)

(5) 実践発表(未定)

～休憩～

14:30 ~ 16:00 【第2部】

(6) 記念講演

(第38期・第4回市民三学大学講座)

演題:「トーク&コンサート さらなる一步を踏み出そう!」

講師:シンガーソングライター 立木 早絵 氏

(7) 閉会のことば(袖ヶ浦市生涯学習推進大会実行委員長)